

ケラ：鉄と鋼の塊

たたら製錬の直接法では、ケラと呼ばれる多孔質の大きな鉄と鋼の塊ができる。3 日間連続で操業した後、炉は解体され、ケラは冷やすために廃墟から引きずり出される。ここに展示されているケラの一部は、1992 年に日刀保たたらで生産されたものである。

日刀保たたらで製錬される平均的なケラは、重さ 3.2 トン、長さ 300 センチ、幅 125 センチ、高さ 25～30 センチ。ケラのおよそ 70 パーセントは高品質の玉鋼で、中心部に集中している。残りの 3 割は低級鋼（ブゲラ）か鉄である。たたら炉が鉄や鋼を生産する主要な手段であった時代には、これらの低級金属は精錬されてから販売されていた。現在では、使用される可能性があるため備蓄されているだけである。